南三小

教育目標
よく考える子ども
心も体もたくましい子ども
仲良く助けあう子ども

１０月号

町田市立南第三小学校
令和 ６年　９月 ３０日
校長　工藤　成

URL https://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310182

秋の全国交通安全運動に寄せて

校長　工藤　成

日中はまだまだ暑い日が続いていますが、朝夕は肌寒く感じる日が増えてきました。校庭では子供たちがボール遊びや鬼ごっこで走り回っています。そして「秋の日は釣瓶（つるべ）落とし」と言われるように、気が付くと夕暮れになっています。それに伴って、車のヘッドライトの点灯も早くなりました。「ピカッと、安全！早めのライトと反射材」のスローガンで、秋の全国交通安全運動が行われました。尚、今日９月 30 日は「交通事故死ゼロを目指す日」です。

令和６年上半期の都内小学生の交通人身事故発生状況が警視庁のホームページから確認できます。それによると小学生の事故件数は 544 件で、昨年同期と比べて 17 件減ですが、過去 10 年で３番目に多くなりました。学年が上がるにつれ、自転車乗用中の事故が増え、高学年では 85%が自転車での事故となっています。その自転車での事故発生状況ではハンドル・ブレーキ操作不適や安全不確認など、何らかの違反をして事故に遭うケースが 80%を超えます。一方、歩行中の事故発生状況では横断中が 75%を占めていました。やはり歩行者の飛び出しと自転車の手会いがしらの事故に対しての注意喚起の徹底が必要です。

さて、日本自動車連盟（ＪＡＦ）が行っている実態調査に「信号機のない横断歩道における車の一時停止率」というのがあります。道路交通法には、歩行者や自転車が横断歩道を渡ろうとした場合、車は徐行して一時停止し、その横断を妨げてはならないと定められています。昨年 2023 年の全国平均は 45.1%で半数以上の車が一時停止しない、という結果でした。そんな中、全国トップは 2016 年の調査開始以来 8 年連続で長野県。84.4%で全国平均を大きく上回ります。ちなみに同県の一時停止率が高い要因の一つには、標識の外周がＬＥＤで光るものを独自開発して導入し、横断歩行者の保護に力を入れていることが挙げられています。さらに交通安全教育の中で、ドライバーとアイコンタクトでコミュニケーションを取ることを基本に指導していることが指摘されています。その他、子供のある行動に着目する人もいます。横断歩道で止まった車のドライバーへのお辞儀です。子供たちが自発的に実行して習慣化し、受け継がれているようです。本来はドライバー側に道を譲る義務があるため、歩行者がお礼をする必要はありませんが、感謝する子供の姿に悪い気分になる人はいません。それどころか、次も止まろうという気持ちが生じる可能性もあります。また、お礼の習慣は子供たちが成長していく中で歩行者保護の意識を醸成させる効果があります。自分がドライバーとなった時、横断歩道を渡ろうとする人がいたら、止まらなければと思うはずです。こうしたハードとソフト両面の取組や習慣がナンバー1 の秘訣（ひけつ）なのかも知れません。

ところで、ドライバーと目を合わせて自分の存在を確実に認識してもらうアイコンタクト運動は町田市でも力を入れて取り組んでいます。本校でも日頃から安全な歩行や自転車の乗り方などについて繰り返し指導しているところですが、とりわけ右のポスターを活用し、丁寧に横断の仕方を教えています。今後も保護者や地域、警察、交通安全協会等の関係諸機関と連携を図り、交通事故防止に努めてまいります。